

土木學會の總會と 久保田敬一博士の講演

社団法人土木學會の通常總會は2月15日午後5時より丸ノ内帝國鐵道協會の講堂にて開催された。出席者は前會長野村龍太郎博士、名井九介博士、那波治雄博士を初め、眞島健三郎博士、大河戸宗治博士其他多數の前役員及會員列席あり、會長久保田敬一博士の司會の下に主事古川淳三氏の事業報告と佐藤利恭氏の會計報告あり、次いで本年當選したる新役員を次の如く發表された。

○			
會長	當選	649票	青山 士氏
	次點	16票	大河戸宗治氏
副會長	當選	634票	平井喜久松氏
	次點	14票	物部 長穂氏
常議員	當選	640票	藤井 眞透氏
	同	631票	小野 基樹氏
	同	626票	山田 隆二氏
	同	602票	堀越 清六氏
	同	585票	宮長 平作氏
	同	577票	内田 莊一氏
	同	564票	加藤 貢氏
	次點	53票	宮本武之輔氏

○
新常議員中に民間側より宮長氏及び加藤氏の二名を入れ、軍部より内田氏一名を入れたるは注目すべきである。

○
特に昨年の土木學會二十周年記念に際し事務の一大刷新を圖ると俱に役員諸氏の努力と相俟つて一舉に會員壹千參百名を増加し、且つ講演に、見學に、出版に夫々土木學會としての重要使命を果しつつあるは國家の爲に且斯道の爲に慶賀に堪えない事である。斯の如

く進み得れば國內技術家の最大多數を占むる土木關係の學會としては會員數は尙大に増加すべきである。而して土木學會本來の使命は益々明朗に達成せらるべく、兎角陰鬱なる斯界も一新するに至るであらう。

○
當日、久保田敬一氏は『技術者の社會上の地位』と題して簡單ながら重要な講演をされた。前年の總會に於て一時會長講演が省略される爲、以來會長講演は形式的にやる必要なきかの如く考へられてゐたが、久保田博士が之を復活すべく立たれたのは多とすべきである。久保田博士は『技術家は常に社會の下積になつてをり、政府直屬の各省に於ても技術家の局長は實に少い、民間に於ても技術家は重役にしない處さへある。一方技術家を最も多く要すべき鐵道建設線の如きも次第に振はなくなつて來た。斯の如くに將來土木は消えるのではないかと云ふ悲觀説さえ生ずるが。土木本來の使命は決してそんなものではない、國家文化向上の爲には土木家多數の先輩が永年多大の精神的投資をしてをるのであるから、決して現在の土木家は前途を悲觀すべきではない、益々實力を養成し、自發的に向上を圖るべきである云々』と力強い暗示を與へた。

○
寔に從來の土木技術家には此の意氣が缺けて居た、唯暗中に個人的躍動を以てすゝ以外に何の公正の氣もなかつた、若し一人の先輩よりも二人が、二人の先輩よりも三ノが等しく此の意氣と精神とを以て團體を指導して行くならば豈嘗に土木學會のみの幸慶ではあるまい。